言葉をつかむ 気持ちをつかむ 聴き取る力

山梨　八重子

「話し上手」「聞き上手」と言う言葉があります。コミュニケーションでは、「話し上手」と「聞き上手」の両方が大切。言葉にそれぞれが思いを込め、その気持ちを伝え共感し合いたいと語り、聴き合うことが大切だからでしょう。しかし中学生を見ていると、なかなか相手の言葉に心を傾け、気持ちを重ねて聴き取ることはできず、誤解やトラブルを生じているように思います。

心地よいコミュニケーションは聴くことと話すことのバランスが大切です。今の子どもたちはどちらかといえば「話す」方に傾きすぎているように思います。言葉をつかみ、そこに込められた気

持ちや心をつかみ、聴き取る力こそ、「聞き上手」の本質かもしれません。「聞き上手」の力を育てる上で、「読み聴かせ」はとても大切なのではないか、子どもたちを見ていて思います。そんなことをつくづく感じたのは、生徒たちを引率し一緒にバスでの移動中のことです。

バスの中では、バスガイドさんがいろいろな話をします。しかし生徒たちは友だちとのおしゃべりに夢中で、全くと言っていいほど聞こうとしません。教員だけが聞いている状況が続きました。注意しても聴かない生徒たち。結局ガイドさんに必要最小限のお話をお願いし、後は生徒たちに任せるように切り替えていかざるを得ない状況でした。確かにストレスは減りましたが、それでよいのかと感じたのも事実です。人の話を聴くというコミュニケーションの基本は、それほど難しいことであるとは思いません。しかし聴くという行為の楽しい体験が少ない人にとっては、苦痛を伴うものなのかもしれないと生徒たちを見ていて感じました。私が人の話しを聴くことに苦痛でなく楽しいことと感じるのは、私の「聴く」体験があったからかも知れません。

私が小さい頃、親は忙しく読み聴かせなど子どもにかまっている暇もないほどでした。そんな状況で出会ったのが、ラジオから流れる「お話出てこい！出てこい！出てこい♪♪」。この音楽にのって、いろいろなお話が聴けるラジオ番組。幼稚園の年長から小学校一年の時、幼稚園や学校を休みがちだった私は、家でラジオから流れてくるこの番組を毎日聴いていました。他の家にテレビがはいっても、我が家はしばらくの間ラジオ時代が続きました。また下宿生活をした学生時代もテ

レビはなく、もっぱらラジオでした。修学旅行の引率で東北遠野の昔話の実演を聴いた時、幼かった頃ラジオで聴いたあのお話の時間が戻ってきたように感じ、その世界に包まれていくようでした。

学生時代に楽しみに聴いたのは、日曜日の夜九時過ぎ、「日曜名作劇場」。森繁久弥と加藤道子、出演者はこの二人だけ。お二人がいろいろな声色で、登場人物を演じるのです。二人の声に思いを広げじっと聴き入りお話の世界に浸る、実に幸せなひとときでした。この番組はこの一月に相方の加藤道子さんが亡くなられて、幕はおりました。

もう一つ好きな番組は「私の本棚」という朗読番組です。非常勤で少し昼間時間がもてた時、仕事の手を止めて聴いていました。仕事の都合でどうしても聞けない時、聞き損ねた時、朗読を待てない時、図書館に走ったこともありました。

鮮烈な記憶として残っているのが、ラジオのルポルタージュ番組。沖縄戦で戦火を逃れ必死で逃げまどう人々を克明に追ったものでした。映像がないのに私の中に戦争の怖さ、恐怖感そして血みどろになって死に絶える人々の姿がまるで見たかのように迫って来ました。「文化講演会」という番組にもはまっていた時がありました。あまりのおもしろさに、仕事の手が止まってしまう程でした。

音の世界に心を遊ばせるという珠玉のひとときき。何とも穏やかな心になれるように思います。朗読を聴くことで、育てられた力があると思うよ

うになりました。それは集中力と想像力、そして創造力です。「聴く」ことだけに集中することで、想像することに専念することができるのです。朗読という音の世界は、一瞬一瞬で消えていってしまうもの。だから一瞬たりとも気が抜けず、故に集中力も求められるのでしょう。私が想像し描いた人物像や風景は、他の人とは違うものです。それはまさに創造力です。そこでは個性をもはぐくむことができたと思います。じっと聴き入り、自分の中でイメージをふくらまし、自分の解釈でその世界で生きている「時空間」、それが朗読を聴く魅力です。

これほど様々なメディアがなかった時代、また文字を読めなかった時代、多くの人々は昔話の語りやお年寄りや親の昔話に耳を傾け、いろいろな情報や教えを得てきました。私たちは、「人の話を聴く時は静かに聴きなさい」と、耳にたこができるほど言われしつけられてきた世代です。そこで語られた話は、自分の知らない世界との出会いであり楽しい体験だったと思います。卒業を控えた子どもたちに、授業で安野光雅氏の絵本を「読み聴かせ」した時のことです。じっと聴き入る様子に驚き、感動さえ覚えました。この子たちも「聞き上手」の素質はあると。語りを聴くことの楽しさを体験できる機会をもっと与えて、「聞き上手」を増やしていけば、もっとすてきな人とのつながりが創り出されるのではないでしょうか。ちょっと希望が見えたひとときでした。

（お茶の水女子大学附属中学校）